

こんにちは

市議会報告

日本共産党
市議会議員

山内涼成りょうせいです



不屈の
56年間

無料化までの歩み

1962年 9月、若戸大橋開通

北九州市誕生の祝賀ムードが落ち着いた頃から通勤、通学に渡橋料を払わなければならない若松区民から、「不公平だ」との声が上がり始める。

6月議会で「関門トンネル、若戸大橋の無料化を求める意見書」が全会一致で採択される。それ以来、日本共産党市議団は、若松区民の基本的人権、交通権保障の問題として若戸大橋の無料化に取り組んできた。

旧5市の卸売市場が小倉北区西港の中央卸売市場に一本化され、市場へ毎日通う業者に渡橋料負担が重くのしかかり、市は負担軽減のために若松の関係業者に渡橋料の補助を行ったが3年間で打ち切った。

9月議会で、野依勇武議員の質問に対し、谷市長が若戸断面に2本目の道路を作る時は、一般の道路事業とすることが望ましいとの答弁。無料化への展望が開かれた。

若戸大橋無料化を求める裁判を提起。野依勇武議員も原告団に名を連ね、多くの若松区民とともに裁判闘争に奔走。

若松区民の悲願実る！



無料法律・生活相談

電話 771-5323
毎週 水曜日(第5週は休み)
毎月1回(高須地域で)
無料で弁護士・市議員が相談をお受けします
若松区修多羅2-4-10

**予約が
必要です**

2014年 2011年 1999年

9月議会で石田康高議員は、若戸断面の2本目の道路、若戸トンネル建設構想が具体化する中で、橋は有料、トンネルは無料ではトンネルに車は集中して橋の維持管理にも支障が生じることを指摘。「橋とトンネルの一元管理による料金の半額引き下げ」を提案し、普通車で片道100円という今日の状況を実現する大きな力となる。

9月議会で、野依謙介議員の質問に対し北橋市長は、「無料化を引き続き研究してまいりたい」と答弁。今回の無料化決断に道を開く一助となった。
11月、2018年末の無料化を発表。

若松の声に寄りそって

裁判所の判断は、若戸大橋が生活道路の性格を有することを確認しつつも、無料化を求める原告住民の訴えを退けるものとなりました。その根拠は、若戸大橋に代わる道路として、若松から黒崎付近を経由して戸畑や小倉に至る迂回ルートがあり2つの選択肢があるというものでした。

しかし、実態として生活道路である若戸大橋は市民の基本的人権、交通権保障の問題として捉えるべきであり、今後の行政に生かすべき教訓です。
56年間どんな批判にも屈せず、若松区民の声に寄り添い続けた諸先輩に敬意を表するとともに、私、山内涼成も若松の声を届けて全力で頑張ります。

FOR ONE MILLION SMILES

100万人の笑顔のために

市議会ニュース

2018・4・27
No.534